

カトリック 仙台教区報

2008年11月2日 No.184

発行

カトリック仙台司教区

〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-12

Tel (022) 222-7371 Fax(022)222-7378

発行責任 広報委員会

URL ; <http://sendai.catholic.jp/>

ペトロ岐部と187殉教者列福記念講演会 殉教者からの現代へのメッセージ

講師 列聖列福特別委員会 委員長 溝部 脩 司教

〔講演要旨〕

〈女性殉教者たち〉

1. 学力到達度調査について

国際学力調査の結果、日本の子供たちの学力が低下していることが判明しました。特に読解力は14位で、応用力や判断力が低下していることが判明しました。文部科学省はこれを受けて対策を立てていますが、思考力や、判断力を育てることが肝要です。日本社会は、子供たちを自律心の欠如、依存体質にしてしまったようです。

放で、性についてルーズであり貞操感がない。これは命を粗末にすることにつながり、子供が多くて生活できなくなると産んだ子供を殺してしまう。一方で、高貴な女性たちの賢さと、聡明さ、教養の高さに驚かされたことも書いています。

2. キリシタン時代の子供たちと女性

キリシタン時代の子供たちの様子をイエズス会の宣教師フロイス神父は、著書の中で我が国(ポルトガル)では子供を躰けるために鞭を使うが、日本の子供は立ち居振る舞いが立派で自律しているから鞭を使ったりはしないとほめています。



た8人の中に林田一家の4人がいました。

いま、日本の子供たちは依存体質で、指示待ち人間になってしまい、行儀も良くない。欧米の子供たちの方が自律している。いつから逆転してしまったのでしょうか。

林田助右衛門とその妻マルタ、娘マグダレナ(19歳)と息子デイエゴ(12歳)です。マグダレナはかねてから貞潔の誓いを立てていました。縛られた縄が燃え落ちると火のついた薪を自分の頭の上に置き、神の清めを求めました。

3. 日本人の性格

また日本の女性については、自由奔

に置き、神の清めを求めました。

火が消えた後、その光景に感動した大勢の信徒たちによって、マグダレナの体は信仰の宝として持ち去られました。これは後に当時の司教の呼びかけで回収されました。

12歳のデイエゴは、教会学校で子供たちに教理を教えていました。やがて子供たちだけで活動する「マルチレス(殉教の祖)のリーダーになりました。

7. 「捨てがたく候と申しきり」
やがて訴人により、長崎奉行所の知るところとなり、細川忠利は小笠原一族を処刑にしないといけない破目になります。彼らは軟禁状態のまま50日間そこに留まります。子供9人と父親の小笠原玄也と母親のみやと4人の下男下女、計15人がその家に軟禁されました。彼らはその間に遺書を書いていました。

5. 子供を産むみやの決意
小笠原みやは、現代の家庭問題にさまざまな教訓を残しています。

「宗旨かえ候との御ことにて候ゆえ、永き後生捨てがたく候と申しきり」。信仰を捨てて仏教に変わらなさいとす

晩婚化、核家族化、独身志向、食卓を共にしない家庭、すれ違い夫婦、少子化など、現代の家族関係は多くの問題をはらみ、家庭とは何かが見えなくなっています。

「宗旨かえ候との御ことにて候ゆえ、永き後生捨てがたく候と申しきり」。信仰を捨てて仏教に変わらなさいとすめられたけれど、永き後生、即ち永遠のいのちとは引き換えにできませんのでキリストを捨てることは絶対出来ないとはつきり申します、と彼女は言っているのです。

迫害が厳しくなってきた中で、9人の子供を産み育てた小笠原みやは、デイエゴ加賀山隼人の娘、小笠原玄也の妻です。

殉教の前に「捨てがたき宗旨ゆえかようになり参らせ候。捨てることが出来ない宗教、信仰ですので私はこのようにして死んでいきますと。」

4. マグダレナ
林田とデイエゴ
有馬で火あぶりにされ殉教

8. 「永き後生捨てがたく」
ここに、永遠のいのちを見据えた、ぶれない信仰が見て取れます。

小笠原玄也は、義理の父親、加賀山隼人が殉教すると同時に禄を奪われ、日雇い人足のような生活をします。主君の細川忠利は自分の幼友達である小笠原玄也をどうにかして守りたい、殺したくないという気持ちがあり、彼らが信者であることを黙認して、ある一軒の家に軟禁します。

現代の甘ったれた現世的な幸せを追い求めるものとは対極にある、永遠の命を見据えた信仰がここにあります。わたしたちは、殉教者からこれらのことを学び、しっかりとした核のある信仰を持ち、子供たちに伝えていかなければなりません。

6. 国の少子化対策
女性が子供を産み育てる環境を整えるように国は様々な対策を打ち出しています。しかし、子供を産むということは女性の意識にかかっています。

この講演会はカトリック仙台廿年の会主催で、10月11日(土) 元寺小路教会大聖堂で行われたものです。

こうした問題を教会の中で話し合

講演要旨は溝部司教様の承認を頂いて掲載しました。(編集部)

こうした問題を教会の中で話し合

「集う、祈る、祝う」テーマに カトリック岩手県大会2008開催

10月19日(日) 10時30分

16時まで、すばらしい秋晴れのもと、岩手県内14教会から、おおよそ350名が会場の盛岡百合学園「百合ホール」に集まった。

今回の大会は「集う、祈る、祝う」をテーマに県内の教会や信徒だけではなく、外国籍の信徒や未信者にも呼びかけ、「あなた」がたはキリストの体であり、また、一人一人はその部分なのです。(一コリント12・27)を体験し、キリストにつ

ながれていることを喜び、祝うことを目的としました。この企画は、県連絡協議会の定例会議で各教会の現状の分かち合いや日本人と結婚した信徒の子供の堅信式をやって欲しいとの要望を基に、同協議会の運営委員会で練り上げたものです。

午前中は、平賀司教主司式によるミサ(写真)、堅信式、初聖体がありました。ミサは司祭13名による大変壮麗なものとなりました。英語、スペイン語、タガログ語、韓国語を交えたミサは国籍

や言葉を超えてキリスト者としての一体感を感じさせるものでした。また、堅信式では平賀司教が一人一人に「神の子に



なるんですよ！」と語りかけている姿が印象的でした。午後からは、日本、南米、フィリピン、韓国のグループが歌や踊り等を披露してくれました。ミゲル神父が指導した踊りでは飛び入りした各国の人が入り乱れ、まさに我々が目指す教会共同体そのものでした。最後に各教会と司祭の紹介がありました。

交流するための時間が無かった、翻訳サービスが必要だった等、反省すべき点が多々ありましたが、私たちは国籍や言葉が異なっているでもキリストに繋がっている同じぶどうであることを実感できたと思っています。(四ツ家教会 湯口靖彦)

「カトリック青森県の集い」

9月7日(日)、青森市の星学園で開催され204名が参加したテーマは「祈り・求め・分かち合おう」。

平賀司教の基調講演が「キリスト者としての正義」と題して行われた。

「福島県カトリックの集い」

9月15日(月)、桜の聖母短期大学で開催された。「今、キリスト者として生きるとは」をテーマに山野内マリオ神父(サレジオ会調布神学院院長)の講演と平賀司教主司式のミサが行われた。参加者は、212名、子供22名(子供の集い)。

いま、ともに祈るとき

司教 マルチノ平賀徹夫



もうすぐペトロ岐部と187殉教者の列福式の日を迎えます。そして今まさに、「列福をひかえ、ともに祈る7週間」を過ごしている真っ最中ですが、教区内の皆様は特にこのために提供されている『列福をひかえ、ともに祈る7週間』の冊子をお使いでしょうか。家で、個人であるいは親子や夫婦で、家族の皆が集まる食事のときとか、家庭や教会でのグループの集まりや随時あるいは定期的集会のときなど、是非、開いてみましょう。そこに挙げられている聖書の箇所を読み、解説をゆっくりと味わい、祈りを唱える。ロザリオ一連でも加えられたらもっといいかもしれません。忙しい日々であればなおさら、その中の10~15分ほどの静かな時間を割り、グループでならば心に浮かんだものを分かち合うなどして、殉教者たちからの信仰のメッセージを受けとめたいと思います。

今、このとき、この188殉教者を想いながら日本全国で熱い祈りがささげられています。わたしたちの祈りもそれに連なるものです。冊子には「殉教者たちの信仰は、過去の話ではなく、いまを照らし、明日への道を示します(6ページ)」という指摘がありますが、殉教という形で表明された殉教者たちの信仰に照らし合わせて、信仰を持って生きる現在のわたしたちのありようを見つめなおす格好の機会として、この祈りの時を心して過ごすことができたらいいなと思います。

わたしたちは「主を信じます」という信仰をどのように表すことができるのでしょうか。わたしたちの持っている希望はどれだけ確固としたものなのでしょうか。「互いに愛し合いなさい」との主のことばはわたしたちの間でどれだけ実際に生きられているのでしょうか。

塩と光

第十二回シノドス通常総会が、ローマで10月5日から26日まで開催され、「教会の生命と使命における神のことば」がそのテーマでした▼まさにみことばをどのように体験するか、教会の中心課題です。まず、日々の生活において具体的にみことばを生きるために、主日のミサの「ことばの典礼」が大切な場となります。典礼の源泉は、聖書ですが、特にミサの中で聖書が朗読され、答唱詩編を歌うとき、神のことばを最も優れた方法で体験します▼典礼でみことばの豊かな体験ができるために、日ごろから聖書に親しんでいることです。「自分が幼い日から聖書に親しんで来たことを知っているからです。この書物は、キリスト・イエスへの信仰を通して救いに導く知恵を、あなたに与えることができます」(一テモテ3・15)▼週日にも毎日のミサで朗読される聖書の箇所を読み、黙想することによってみことばが自分の血となり肉となります▼ミサの終わりにみことばを伝えるために派遣されます。日々出会う人々にミサでいただいたみことばを分かち合う使命を遂行することが大切です。(博)

インターナショナル・ミサ

シヨナル・ミサの式次第などが具体的に準備されたものであ

9月28日(日)、元寺小路教会において、仙台中央地区合同典札として「インターナショナル・ミサ」が行われた。この日はちょうど「世界難民移住移動者の日」に当たっており、いろいろな国から移住・移動し、仙台教区で生活している多くの人々も交え、約500人の信徒が「みんな仲間だ」のテーマのもと、共に集い、心を一つにしてミサをささげた。主司式は中央地区モデラトルの渡辺彰宏師で、中央地区の担当司祭が共にミサをささげたが、「いきいきとした信仰が感じられた」と参加者から喜びの声が上がっていた。

今年もエメ師を中心に、準備委員が集まり、討議し、インターナショナル・ミサの式次第が、そのおかげで、どの国の参加者も大変よくわかって参加することができた。

エメ師は、日本語、英語、スペイン語、フランス語で、概略以下のような説教を行った。「旧約の神の民はエジプト脱出とバビロン捕囚という2回の民族移動を経験したが、イエスもヘロデ王の手を逃れて、難民の生活を送られた。キリスト者が、外国人を大切に迎えるのは、基本的な義務である。現代においても、民族同士の争い、戦争などの人災から、また自然災害によって、さらに、経済的な問題から多くの人々は、故郷を離れて生活している。私たちは、

違いのものと思っている。どの宗教もどの宗派も、今あるところから一歩、また一歩と成長していくことだけが大切なことと思っている。神父になるうと思つたの



自分のことだけを考えるのではなく、これらの兄弟姉妹のことを考えていかなければならない」。共同祈願も、各国語で唱えられ

「神の招きに応える道」

横島健二神父

幼少のころ、キリスト教が、中でもカトリックが一番正しい宗教と教えられ、長い間そう信じてきた。司祭職は特別な召命と教えられ、そう信じて神父になった。

しかし年を経るにつれて、このような信仰は、徐々に崩されてきた。

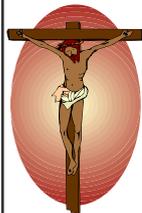
今は、どの宗教がどの宗派が一番かと問うことが、一番の間

招きにごたえて

21

は、食糧難の時代に司祭館からただよってきたにのせいだ。

神父になったら美味しいものが食べられると思った。それだ



けのことで、神の招きなどというものを聞いたことなど一度もない。もしも本当に神様がいらつしやうって、すべての人を導いているとしたら、誰もが今いる場で感じていふこと、今しないといけないと思うことの中に、「神の招きに応える道」があるのだと思つている。

「アメイジング・グレイス」が歌われたが、これは、イギリスの奴隷船船長が、回心して牧師になり、悔恨と神の愛への感謝の心を歌つたもので、この日のミサにふさわしい聖歌であった。

2008年度

仙台教区司祭団黙想会

9月29日(月)から10月4日(土)にかけて、司祭団の黙想会が、那須黙想の家で開催された。講師のカルメル会司祭・大瀬高司師は、司牧経験と歴史学の学識に基づき「回心」、「撰理」、「聖成の神秘」、「終末」について内容豊かな講話をなさった。参加予定の司祭の何人かは、土壇場になって



司祭たちが霊的に成長し、宣教と司牧に専念するために黙想会は大切である。(佐々木博)

司教日程

11・12月

- 11・1 ① 金ヶ瀬カトリック保育園50周年
- 2 ② 3 部落差別人権委員会全国会議
- 4 ④ 司祭評議会・司祭団役員会
- 6 ⑥ 社会司教委員会
- 9 ⑨ 青森本町教会
- 11 ⑪ 13 日韓司教交流会(韓国・馬山)
- 15 ⑮ 宣教司牧評議会役員会
- 16 ⑯ 活性化のための研修会・福島
- 23 ⑳ 27 列福式参加巡礼
- 28 ㉘ カトリック神学院兼任司教委員会
- 30 ㉚ 活性化のための研修会・青森(塩町)
- 12・1 ① 2 教区司祭の集い
- 6 ⑥ 7 部落差別人権委・シンポジウム
- 9 ⑨ 司祭評議会・司祭団役員会
- 13 ⑬ 14 松木町教会
- 20 ㉔ 宣教司牧評議会役員会
- 24 ㉖ 主の降誕(元寺小路教会)
- 25 ㉗ 主の降誕(元寺小路教会)

第8回ロゴス研究所講演会

イースター島文明はどうして滅びたか

〜地球環境を考える〜

講師・東北大学名誉教授 猪岡 光氏

第8回仙台ロゴス研究所主催の講演会「イースター島文明」は、9月28日（日）午後1時30分から3時まで、カトリック北仙台教会信徒館で開催された。

北仙台教会のラトゥール神父が、現在、地球温暖化が指摘され、このままでは地球が減んでしまおうと言われるが、地球を神から委ねられた我々人間にその責任がある、と挨拶された後、東北大学名誉教授である猪岡光氏が、次のように話された。



新しい農業技術をもった別の人々が入植してきた。彼らは森林を伐採し、農地を広げていったが、森を失ったために、表土が流れ、食糧もできなくなった。この現象は急速におこり、

現在チリの領有であるイースター島は、ポリネシア・トラアングルと呼ばれるパプア・ニューギニア、ニュージーランド、ハワイを結ぶ三角形の



こうして、イースター島文明は滅んでしまったのであるが、これと同じ現象が、地球規模で起こっている。地球が誕生したのが46億年前と言われているが、この46億年を1年と考えると、1月1日に地球が誕生し、12月31日に人類が出現したことになる。この人類が、農耕を始めたことにより、人口が増加し、都市を形成し、古代文明が発展したが、森林の伐採、表土の流失、文明の衰退を繰り返してきた。現代、私たちは化石燃料を使っているが、30億年かかって作られた石油を、この100年の間に



使ってしまったおうとしている。穀物の自給率も、日本は28%である。

地球環境の深刻な問題を大変分かりやすく話されたが、最後に、約50人の聴衆に、「神から造られた人間は、どこへ向かおうとしているのか。人類の一員として、日本人として、キリスト者として、どこに向かおうとしているのか」と大きな問いを投げかけた。参加者一人ひとり、自分たちには何ができるのかという重い宿題をいただき、またこのような講演会の開催を希望しながら散会した。

地球を大切に作る会

猪岡氏を中心に地球環境を守るために私たちは何ができるか、何をしなければならぬかを考える集いです。【次回】12月13日（土）午後2時〜北仙台教会

新刊案内

『北国を描く』

（鷹鷲達衛神父のスケッチ集）

著者 鷹鷲達衛／編集 圓子哲雄

発行 潮社／定価 2096円＋税

本書の著者は、教区の信者さんによく知られ、尊敬されている、鷹鷲達衛神父様です。それまで絵筆をとったことのない神父様が、絵を描き出すことになったのは、イタリア留学中、3ヶ月間ある夏休みに、「将来役立つ何かをしたらどうか」という提案を神学校の校長神父様から出された時のことだそうす。

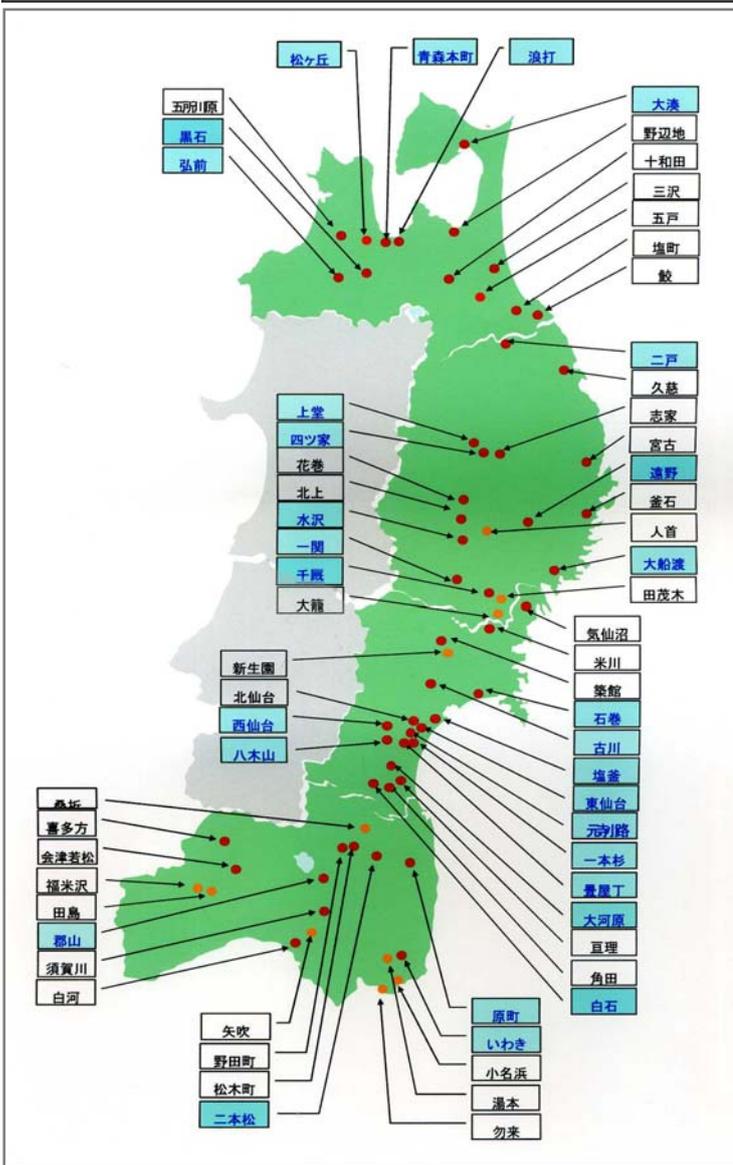
カトリック八戸鮫町教会に赴任していた同師が、詩の同人誌の主筆者である圓子哲雄氏と出会い、鷹鷲師の画才に心打たれた圓子氏が、「ぜひ画集出版を」と勧めた結果、今回の出版が実現したものです。

繊細なスケッチだけでなく、彩色したものもあり、人物、海外の教会や町並みの絵、仙台教区内の旧元寺小路教会や、八戸の港、船など、神父様が描きたいと心ひかれたものばかりが描かれています。

さらに、絵だけでなく、同師の文才、詩才を感じさせる、ダヌンチオの「夕闇」、ミケランジェロの「詩集（リーメ）」が訳出され、同師のヴェニス・パドワ旅行記が掲載されているのも、この画集の魅力がいや増すところであり、読者をひきつけます。

ぜひ、実際に本書を手にとって、この絵を鑑賞されることをお勧めいたします。

カトリック仙台教区教会配置図



ホームページで仙台教区教会紹介

教会のページに飛ぶこと

旅先で、主日のミサに参加したい、または、教会を訪問したいと思つたとき、最寄りの教会をインターネットで検索する人が多い。確かにホームページを見れば、ミサの時間・教会の様子・地図など一目瞭然である。

カトリック仙台教区のホームページにも各教会を紹介するページを作成している。

トップページの「仙台教区教会配置図」をクリックすると、左図のような教会配置図が見られる。ここで、教会名の枠が青色の教会をクリックするとその

とができる。見本として大河原教会のページを下に表示。

各教会のページの内容は、①教会名②教会の守護者③教会の写真(祭壇と外観)④教会の沿革と特徴⑤主日のミサ時間⑥所在地・アクセス方法・地図⑦併設または近隣のカトリック施設⑧担当司祭⑨バリアフリーの施設、となっている。

また、独自のホームページを開設している教会は、直接そのページにリンクしている。ページを完成させたいと考えている。

各教会の資料を広報委員会へ送っていただきたい。(岩井)



幼児洗礼について

Q: 幼児洗礼について、信者さんから、「本人が大きくなってから、自分の意志で受洗するほうがいいのではない?」と言われたのですが……

A: 1992年に出された『カトリック教会のカテキズム』は、キリストの教えに対する現代の疑問に答えるように配慮されているものです。この中には、「幼児洗礼」の

項目があり、次のように書かれています。「幼児洗礼においては、救いの恵みがまったく無償で与えられることがとくに顕著に示されます。もし、教会と両親とが、生まれて間もなく子供に洗礼を授けたいとすれば、神の子となるはかりしれない恵みを子供に与えないことになるでしょう」と(1250項)。

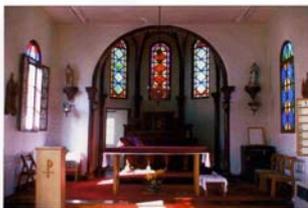
しかし、日本の教えには、次のような付加があります。「ただし、牧者と両親あるいは関係者が諸般の事情を考慮し、洗礼の時期を遅らせることが賢明であるという司牧的判断をその可能性もあります」。

この文章を拡大解釈して、両親が自分たちだけで決めてしまわれることがあります。まず、ご両親が司祭に相談することが必要です。

カトリック大河原教会

日本26聖人殉教者

CATHOLIC OHGAWARA CHURCH



宮城県南部の大河原地区にカトリック教会の種が蒔かれたのは1880年(明治13年)11月23日「きくちいざう」が洗礼を受けた時が始まりとされています。1881年には数ヶ月の間に十数名の信徒が生まれ、大河原は1883年に仙台元寺小路教会の巡回地になりました。1903年(明治36年)3月に内務大臣から教会設立認可を受け、宮城県南部地区初の教会が大河原に誕生しました。1915年(大正4年)11月には大河原教会の聖堂と司祭館が建設され、大河原教会最初の常住主任司祭として早坂久之助神父(後の長崎司教)を迎えました。その後、1989年(平成元年)11月からは大河原教会、白石教会、亘理教会、及び角田教会の宮城県南4教会が共同宣教師・宮城県南地区となり、県南地区の宣教師が任じられています。大河原教会の聖堂は木造瓦葺ロマンチック建築で、国の重要文化財に指定されている鶴岡カトリック天主堂をモデルにしたものです。

主日のミサ時間
第2主日 9:30、第4主日 14:00
(第1、第3日曜日は集衆祭儀 9:30)

所在地・アクセス

〒989-1241
宮城県柴田郡大河原町字町22
電話 (0224-53-1271) FAX (0224-53-1430) 地図

JR東北本線 大河原駅 下車 徒歩10分

伊勢又は近隣カトリック施設
大河原カトリック幼稚園

担当司祭
小野寺洋一 神父



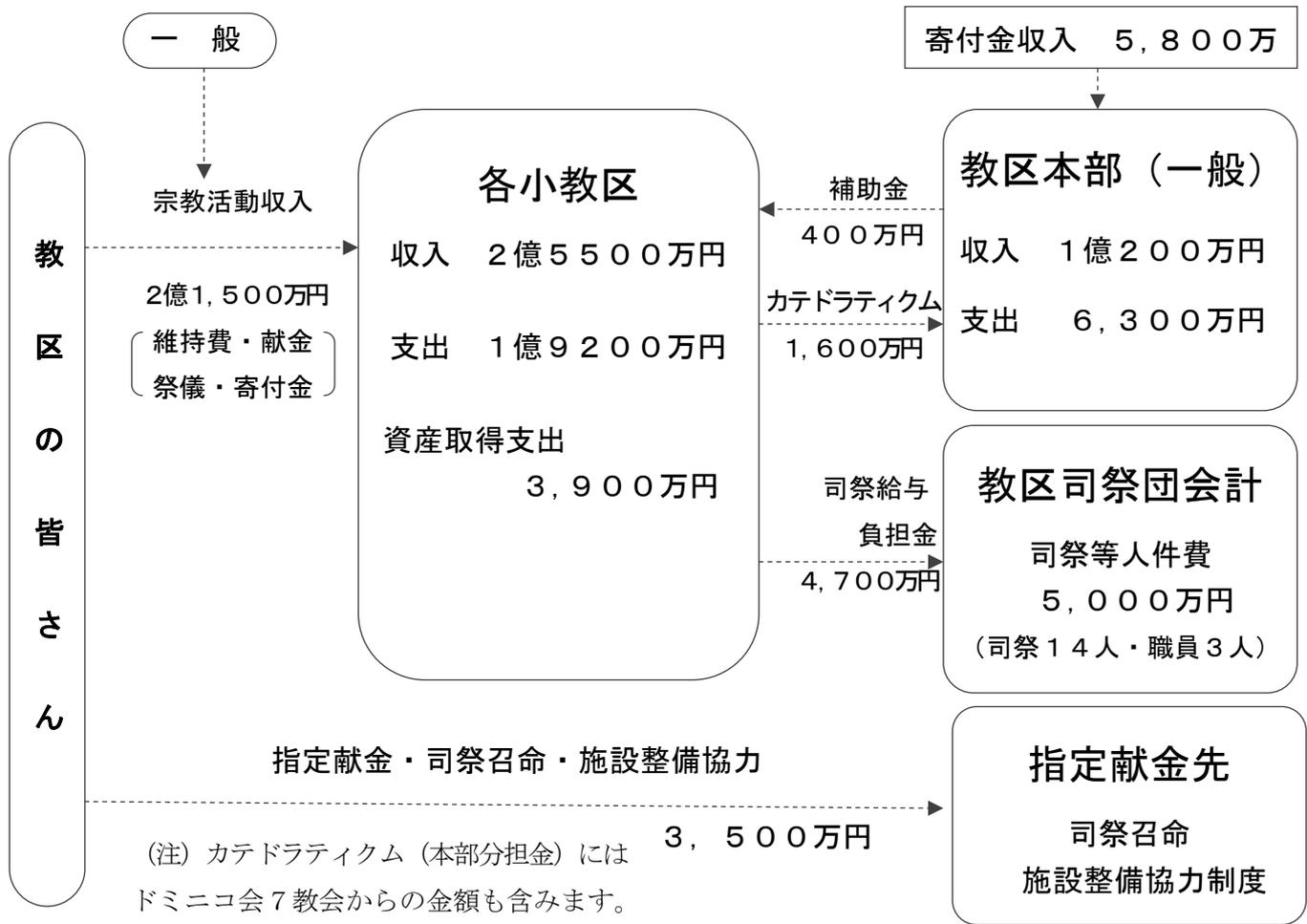
駐車場

仙台教区2007年度 決算概況

(2007. 4. 1~2008. 3. 31)

仙台教区の財政的な交わり

主な収入・支出の流れ (カトリック仙台司教区)



仙台2007年度決算概要

(2007年4月1日～2008年3月31日)

カトリック教会は教会法(カトリック新教会法典)により、教区を基本的な単位とします。日本の法律上も「カトリック仙台司教区」という一つの宗教法人で、教区の決算は小教区の会計を集計し、教区本部会計とともに所轄官庁に報告します。税務面でも所轄の税務署に申告します。

いるのは信徒の皆さんです。毎月の維持費、ミサ献金、結婚式・葬儀ミサ謝礼の祭儀収入、聖堂建設のため等の特別献金そして一般献金が小教区の収入のほとんどを占めております。

小教区からは、教会維持費とミサ献金の年間合計の9%以上をカテドラティクム支出(本部分担金)として教区本部に納入し、これが教区本部の活動資金となります。

お金の流れについては、概要を図にしました。このように財政面においても教会全体が一つの交わりを持っています。

これら7教会が該当します。これらの小教区の財産管理は所属する宗教法人でなされますが、教会法上、仙台教区の小教区であることに変わりありません。財産管理以外の宣教司牧活動は、他の小教区と同様に、教区や地区の活動に参加し、教区全体にかかわる宣教活動を支えるために教区本部分担金(カテドラティクム支出)を納入していただいております。

教区本部の会計は、今までのいろいろな経緯から、「10」の会計に分かれております。「カテドラティクム」を受け入れているのは「教区本部(一般)会計」で仙台教区としての宣教司牧の活動費となっており、これから他の会計も含めて、教区のお金に関する流れを説明する機会を設けて、信徒の皆様のご理解を得られる努力を行ってまいります。

◇仙台教区の財政的な交わり

仙台教区の財政を支えて (会計補佐 小守林新策)

教区本部一般会計の収支

単位千円

収入の部		支出の部	
カテドラティクム収入	15,757	宗教活動費	4,418
祭儀収入	1,050	宣教司牧費	(4,326)
一般寄付収入	2,715	事務運営費	8,633
特別寄付収入	55,150	人権費	16,924
受取利息	1,029	司祭給与	(5,581)
教区内繰入金収入	21,025	退職金	(5,904)
その他の収入	5,749	教区内繰入支出	33,200
経常収入合計	102,475	経常支出	63,175

小教区の収支

(ドミニコ会7教会・聖母幼稚園・亘理カトリック幼稚園 鶴ヶ谷墓地会計を除く) 単位千円

収入の部		支出の部	
宗教活動収入	215,001	宗教活動支出	26,102
教会維持費	(94,715)	指定献金支出	20,803
献金	(31,344)	事務運営費	69,522
祭儀	(32,258)	光熱水費	(19,078)
その他	(56,684)	保守・修繕費	(18,821)
指定献金収入	20,803	人件費	12,747
補助金収入	4,681	司祭給与	(3,120)
教区内繰入金収入	1,930	教区内繰入支出	60,105
施設設備利用	5,746	カテドラティクム支出	(12,592)
その他	6,789	司祭給与と分担金	(47,512)
収入合計	254,950	その他	3,078
資産売却収入	6,180	支出合計	192,357
		資産取得支出	39,830

パルシア開設10周年

幸せな人生を支えて

施設長 折腹実己子

社会福祉法人カトリック児童福祉会の七番目の施設として開設した『特別養護老人ホームパルシア・燕沢デイサービスセンター』が、10月1日で10周年を迎えることができました。

10月11日に元寺小路教会で

平賀司教の司式による感謝の祭儀(写真)が行われ、ミサの最後には当法人理事長でもある梅津明生神父から、ボランテイアへの感謝の表彰が行われました。また、その後開催された祝賀会には、100名を超える関係者がお祝いに駆け付けて下さいました。

パルシア開設からこれまで、

平賀司教の司式による感謝の祭儀(写真)が行われ、ミサの最後には当法人理事長でもある梅津明生神父から、ボランテイアへの感謝の表彰が行われました。また、その後開催された祝賀会には、100名を超える関係者がお祝いに駆け付けて下さいました。

- 1998年 9月25日 落成式
- 2000年 10月1日 事業開始
- 2000年 3月21日 配食サービス開始
- 2001年 4月1日 介護保険事業所の指定
- 2001年 8月21日 パストラルケア開始
- 2002年 4月1日 特養新ユニットケア開始
- 2002年 11月13日 ISO 認証資格取得
- 2003年 7月1日 ランチタイム開始
- 2004年 10月2日 地域防災訓練に参加
- 2005年 8月1日 仙台市介護予防マネジメントモデル事業受託
- 2006年 4月1日 燕沢地域包括支援センター受託
- 2006年 5月12日 作業療法士業務開始(嘱託)
- 2006年 7月1日 仙台市介護予防・地域包括ケア構築事業受託
- 2006年 7月7日 音楽療法士業務開始(嘱託)

パルシア10年の歩み



2007年 4月1日 職員育成委員会、専門誌
2008年 各都県発足

社会福祉法人カトリック児童福祉会

10月11日開設10周年記念ミサ・祝賀会
すべての人の幸福のために、特に児童と老人のための福祉事業をキリストの精神に基づいて行うことを基本理念に1966年に設立された。
児童福祉施設として
金ヶ瀬カトリック保育園
川渡カトリック保育園
古川東町カトリック保育園
米川聖マリア保育園
の四つの保育園。

老人福祉施設として

特別養護老人ホーム「暁星園」
軽費老人ホーム「あけの星荘」
特別養護老人ホーム「パルシア」
の3施設がある。
神への愛と人間相互の愛の実践の場として、それぞれの施設は困難の中にあっても、最大の努力を続けている。

法人本部：仙台市宮城野区
安養寺二丁目24-5

理事長 梅津明生神父

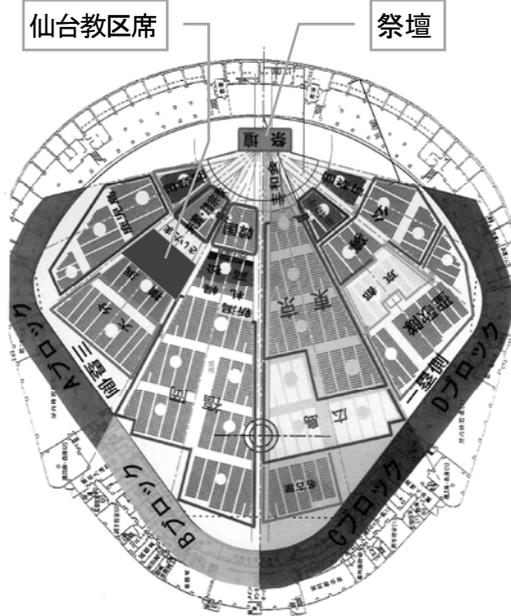




ペトロ岐部と187殉教者列福式

< 式典内容と参加者へのお知らせ >

列福式場配置図



列福式ミサで歌われる聖歌

- ・(入祭) ㊦87 今日こそ神が造られた日
 - ・㊦174 わたしたちは神の民
 - ・うわさにさそわれ・殉教の血潮に
 - ・(肖像画除幕) ㊦㊦アルヤすべての国よ神を
たたえよ
 - ・ミサ曲 ㊦218~221 ミサ曲 5
 - ・(答唱詩編) ㊦107 主とともに
 - ・アレリヤ唱 ㊦ 276 (日本 26 聖人)
 - ・(奉納) さいわい・㊦ 98 しあわせな人
 - ・(聖体拝領) ㊦㊦325 マラナタ
㊦61 神は残された 不思議なわざの記念を
㊦123 主はわれらの牧者 ㊦㊦309 キリスト
のいのち ㊦㊦ 246 ひせきにもりて
 - ・(閉祭) ㊦367 賛美の賛歌ーテ・デウム
・恵の風に帆をあげて・ペトロ岐部と187殉
教者賛歌
 - ・(式後) ㊦391 ごらんよ空の鳥
- * 太字は列福式のために作られた聖歌

列福式のパブリック・ビューイング

列福式のライブ映像がインターネットで配信されますが、これを利用してパブリック・ビューイングを行います。
日時：11月24日 12:00~15:00
場所：元寺小路教会 1階ホール
ご希望の方は前日まで元寺小路教会までご連絡ください。

2008年11月24日(月) 12:00~14:00

●殉教者教区

長崎 44名、福岡 28名、大分 2名、鹿児島 1名、広島 5名、
京都 52名、大阪 1名、東京 2名、新潟 53名、 計 188名

●会場

ビッグNスタジオ (大橋球場)

- ・収容人員 内野スタンド 20,000人、フィールド 5,000人
外野スタンド 5,000人 計 30,000人

●式典(開場と式次第)

- 10:00 開場・着席
- 11:30 福者紹介のDVD上映
- 12:00 式典開会 列福式ミサ
- 14:30 式典終了(遅くても15:00まで)・退場

●前夜祭のお知らせ

列福式前日 11月23日に長崎市内の4教会(浦上・城山・大浦・26聖人記念館)では16:00~21:00の間、前夜祭として「祈りの集い」が行われます。(※印はその中に一つです)

- ・カトリック浦上教会 (大司教座聖堂・〒852-8112 長崎市本尾町1-79)
<聖体礼拝>

*17:00~17:45の「前夜の祈り」

列聖列福特別委員会委員長溝部 脩 司教(高松教区) 司式。

- ・カトリック城山教会 (〒852-8023 長崎市若草町6-5)
<みことばによる黙想>

*18:00~19:30「列福に対する感謝ミサ」(聖アウグスチノ会担当)

- ・カトリック大浦教会 (〒850-0931 長崎市南山手町2-18)
<ロザリオ>

- ・日本26聖人記念聖堂 (〒850-0051 長崎市西坂町7-8)
<青年たちの意向による祈りの集い>

*17:00~17:50・教皇代理の訪問

●巡礼団や信徒のためのミサ

- ・カトリック中町教会 (〒850-0055 長崎市中町1-13)

16時・17時・18時・19時・21時

式典参加上の注意事項

- * 雨具(ビニールコート)を持参してください。(傘使用は禁止)
- * フィールド内での食事はできません。水(ペットボトル)は場内数か所で販売しています。
- * 写真撮影は、ご自分の席からお願いします。
- * 会場で気分が悪くなったら→救護班(グリーンのブルゾン着用)に声をかけてください。(保険証またはコピー持参のこと)

列福式のための聖歌の練習と仙台教区公式巡礼団にご参加の方のオリエンテーションとを行います。(聖歌練習はどなたでも参加できます)
日時：11月16日(日) 14:00~15:00 聖歌練習 15:00 オリエンテーション
会場：元寺小路教会大聖堂